NDT 工業会
The Japanese Association For Non-Destructive Testing Industry (JANDT)
ⓒ日本非破壊検査協会

発行元 一般社団法人日本非破壊検査工業会
〒101-0047
東京都千代田区内神田2丁目8番1号 冨高ビル3F
電話 03-5207-5960　FAX 03-5207-5961
URL : https://www.jandt.or.jp/
編集 : 広報部会

第21回 日本非破壊検査工業会 技術討論会を開催

技術部会（安田裕之部会長）は、8月25日、100名程度の参加者を迎え、きゅりあん（品川区立総合区民会館）において「石油・電力の保守検査における新たな潮流と新技術」をテーマとして技術討論会を開催した。

鈴木啓之実行委員長（ダイヤ電子応用）の開会宣言に引き続き、主催者を代表して長岡康之理事長は「石油や電力は身近にある重要なインフラであり、保守検査で非破壊検査が支えている。しかし、業界は人手不足等の課題を抱えており、本日のテーマにあるようにDX・AI等の新技術を導入し効率化を図ることが求められている。これを飛躍のチャンスとし、業界を代表する企業や団体、行政から経済産業省や総務省による講演が、課題克服に向けた共通認識とひらめきを得ることが出来れば幸いです」と挨拶した。

午前の部は、中村英之座長（IHI検査計測）の司会で進められた。最初の講演は、日揮グローバルの中村祥平シニアQCエンジニアより「プラント建設現場における最新検査技術の適用事例」というテーマで、ロボティックDRおよびFMC/TFMの実運用での特徴と作業効率について紹介された。

続いての講演は、電力中央研究所上席研究員である福冨広幸博士より「最近の超音波探傷技術」というテーマで、形状変化部からの超音波探傷技術、イメージング技術の概要と測定例等が紹介された。

午前の部最後の講演は、千代田化工建設O&M－Xソリューション事業部の濡木衡氏から「plantOS®で実現する保守検査DX：データ統合と3D可視化で繋ぐ検査結果と意思決定」というテーマで、共通プラットフォームを活用することで、保守検査業務全体の質とスピードを飛躍的に高める保守検査DXの実現可能性が示された。

午後の部は、渡邊正宏座長（専務理事）の司会で、

パネルディスカッションのもよう

最初の基調講演は、総務省消防庁予防課危険物保安室の根本雄課長補佐より「危険物行政の最近の動向について」をテーマに講演された。

最後の講演は、経済産業省製造産業局の須賀千鶴産業機械課長より「最近の政策動向について」をテーマに、デジタル庁における技術検証事業では現場での技術実装を意識し、町田市と連携して目視に類する方法としてX線透過検査等を用いた非破壊検査が、従来の目視点検を技術的に代替できるか、コストの削減効果等（実用性）があるかを検証し、結果として活用できることが示された。規制所管府省庁による技術検証の結果、対象586条項のうち約98%（2025年3月時点）の見直しが完了している。今後は見直しによって解禁されたデジタル技術を現場に実装させる必要がある。埼玉県八潮市の下水道インフラに関する重大事故が発生している。できる自治体からデジタル技術の実装を加速させる必要があるとした。

パネルディスカッションは、島根大学材料エネルギー学部の三原毅学部長のコーディネートのもと、「石油・電力の保守検査における新たな潮流と新技術」をテーマに意見交換が行われ、活発な討論がなされた。

閉会宣言は安田技術部会長より、関係各位への御礼とともに有意義な技術討論会であった旨が述べられ、第21回技術討論会は成功裡に閉会した。

鈴木啓之
実行委員長

長岡康之
理事長

中村祥平氏
（日揮グローバル）

福冨広幸氏
（電力中央研究所）

濡木衡氏
（千代田化工建設）

根本雄氏
（総務省消防庁）

須賀千鶴氏
（経済産業省）

三原毅氏
（島根大学）

安田裕之
技術部会長

機材支部　令和7年度支部大会を開催

機材支部大会のもよう

堀充孝機材支部長

機材支部（堀充孝支部長）は、6月20日に大田区産業プラザPiOにおいて支部大会を開催し会員企業等から40名が出席した。

開催に先立ち堀支部長は「非破壊検査業界は若年層の人材不足、社会的地位の向上、非破壊検査の効率化など様々な課題があるなか、本部ではコンクリート構造物の配筋探査技術者の国家資格化推進を検討している。機材支部では非破壊検査の普及と振興への取り組みとして、「新入社員のための非破壊検査基礎講習会」等の各種講習会の開催や、「中性子線CT撮像装置（産総研）」等の見学会を実施することができた。これも会員の皆様のご協力の賜物と感謝する」と謝辞を述べた。

続いて、令和6年度の事業報告及び監査報告等並びに令和7年度の会務担当役員及び事業計画等の報告、令和6年度表彰者発表が行われた。

特別講演は、宇宙航空研究開発機構（JAXA）航空技術部門の星光氏より「航空機複合材料構造の修理と非破壊検査技術について」と題し、航空機の損傷事例や、複合材構造の非破壊検査方法として目視･打音･超音波・エックス線等の事例が紹介された。また、検査の基本は目視検査であることや、最新機体はこれまでの経験を活かした強靭な構造で損傷発生は少ないと締めくくり講演は終了した。

場所を移しての会員交流会は、会員同士の情報交換と親睦を深める機会となった。

西日本支部　令和7年度支部大会を開催

清水重之支部長

松村康人顧問

7月3日、西日本支部（清水重之支部長）は北九州市小倉北区の「リーガロイヤルホテル小倉」にて、野口博文副支部長の司会のもと令和7年度支部大会を開催した。

挨拶に立った清水支部長は「「トランプ劇場」による混乱や各国での戦闘も未解決、国内では「令和の米騒動」で不満も広がっている。非破壊検査業界は、若年層の人材不足、技術者の効率的な育成、物価上昇を乗り越える賃上げなど多くの課題がある。この中で、非破壊検査の普及と振興を通じて、社会的地位と信頼性を高めるため、本部では配筋探査技術資格の国家資格化を模索している。支部では「アンケート要望による講座」を全会員向けに初のウェビナーで開催し好評を得た。今年度も活発な活動をとおして、会員の期待に沿った支部作りに取り組んでいく」と述べた。

続いて、令和6年度の会務担当及び会務報告並びに委員会活動報告、令和7年度の会務担当及び運営体制並びに事業計画が報告され、令和6年度優良従業員表彰などが行われた。

懇親会では清水支部長の挨拶、斉藤鉄夫衆議院議員の稲田隆則秘書、秋野公造参議院議員の水田和代秘書、中島隆治北九州市議会議員、JSNDI九州支部の村山理一支部長と来賓の挨拶が続き、長岡康之理事長の乾杯音頭で懇親会が開宴し、松村康人顧問の一丁締めで散会となった。

豊かな経験・確かな技術

非破壊検査全般 ◆ 建築物設備配管劣化診断 ◆ コンクリート躯体調査･埋設物調査

JASCO 株式会社ジャスコ
JAPAN SKIAGRAPH CO., LTD.

本　　社　〒222-0033 横浜市港北区新横浜1-23-3
TEL 045(473)5140　FAX 045(473)5141
札幌営業所　〒003-0833 札幌市白石区北郷3条11-4-20
TEL 011-875-4166　FAX 011-875-0666
E-mail:eigyou@kk-jasco.co.jp　http://www.kk-jasco.co.jp/

東日本支部　令和7年度支部大会を開催

特別講演のもよう

小田原勝彦支部長

東日本支部（小田原勝彦支部長）は7月22日、大田区産業プラザPiOで会員約30名を集めて令和7年度支部大会を開催した。

冒頭、小田原支部長は、日頃のご支援・ご協力に謝意を表したうえで「非破壊検査業界では売上高が令和元年度比で約5%上昇したが、人手不足感が強く中途採用の割合が増え、価格転嫁や賃金上昇が進まず厳しい環境にある。若年層の人材不足や社会的地位向上、技術者育成の効率化といった課題が顕在化している。今後は、デジタル技術の活用、ビジネスモデルの転換、新たな市場創出、次世代人材の育成、企業の成長力強化を通じて活力ある業界成長が期待される。東日本支部では支部運営システムの合理化や委員会活動の活性化を図ることで、社会の安全と安心に資する所存だ」と述べた。

続いて、令和6年度の事業報告と令和7年度の会務担当及び事業計画が報告され、令和6年度優良従業員表彰などが行われた。

当工業会の長岡康之理事長による特別講演は、非破壊検査業界が抱える課題を「人手不足」・「仕事の減少」等の4項目に整理し、その原因を考察したうえで、解決策として「配筋探査資格の国家資格化による制度的評価と処遇改善」とインフラ調査士の成立ちを示し「インフラ調査士資格を仕事に結びつける」等を提案した。

会場を移しての懇親会も大いに盛り上がり、会員相互の情報交換や親睦を深めるところとなった。

関西支部　令和7年度9月例会兼経営交流会を開催

特別講演のもよう

的場正文支部長

9月4日、関西支部（的場正文支部長）は9月例会兼経営交流会をホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンターにおいて開催し、34名が出席した。

冒頭、的場支部長は、去る7月6日にご逝去された富田裕樹前関西支部長（総合検査）へのお悔やみの言葉を述べた後「トランプ関税、物価高騰、エネルギーコスト上昇や国内では人手不足を抱えている。非破壊検査業界も、技術者不足、コスト管理、品質保証の厳格化などの課題を抱え、AIやデジタル技術を駆使した技術・装置の積極的導入、ドローン検査やタブレットとクラウド連携によるリアルタイム診断の実用化など、現場力が問われる時代に突入している」と挨拶をした。

例会では、本部及び各部会・支部委員会事業報告が報告された。続いての経営交流会は、当工業会の長岡康之理事長より「非破壊検査業界の課題に対する工業会の取り組み」と題した特別講演が行われた。インフラ調査士資格を仕事に結びつける近道、配筋探査資格の国家資格化へ向けた動きなどについて1時間の講演が行われた。

検査機器の紹介では、KS-NETより、JSNDI超音波探傷実技試験及び講習会装置USM38JEと，変更となった垂直探傷実技試験体（鍛鋼品）についての説明があった。

その後、会場を移して、川﨑博義幹事の挨拶に引き続き、富田前関西支部長をしのび献杯の後、会員各社の情報交換・歓談が和やかな雰囲気の中で行われた。

安全で安心な
生活環境を
目指して
非破壊検査と焼鈍工事の
ユキビルド　株式会社
〒210-0808 川崎市川崎区旭町 1-9-10
TEL:044-222-3222　FAX:044-201-6532

お客様と社員に信頼される
企業でありつづける
溶接検査株式会社
本社：〒985-0853
宮城県多賀城市高橋4丁目13-1
ＴＥＬ：022-352-3459
ＦＡＸ：022-352-3460
URL：http://yosetsukensa.com
出張所　：　青森・山形・秋田

西日本支部　令和7年秋期例会・特別講演を開催

清水重之支部長

鈴木晃センター長

西日本支部（清水重之支部長）は9月4日、ANAクラウンプラザホテル広島において、出席者31名のもと「令和7年度秋期例会・特別講演」を開催した。冒頭、清水支部長は、会員企業の皆様に対して、平素よりの支部活動へのご支援とご協力に謝辞を述べたのち「支部の前期事業報告及び今後の予定について、特別講演は「中国地方整備局のインフラ点検診断に係る取り組み」と題した講演を予定している。これを機にインフラ点検の参考にしていただけたら幸いである」また「本部では、配筋探査技術者資格の国家資格化への取り組みとして、制度構築検討を進めるべく【技能検定制度検討WG】を立ち上げた。また会員相互の情報交換サイト【工業会119】を新たなSNSを導入し活性化を目指している。引き続き皆様のご協力をお願いしたいと語った。

続いて、前期の支部活動報告並びに、各委員長（広報・技術・安全・教育）による委員会報告及び本部関連報告が行われた。その後、特別講演に移り、中国地方整備局中国道路メンテナンスセンターの鈴木晃センター長から「中国地方整備局のインフラ（橋梁）点検診断に係る取り組み」と題し、中国地方整備局の管理橋梁の現状や健全度判定に係る新技術の導入例等を分かりやすく説明した。

懇親会には30名が参加した。清水支部長の開会挨拶に続き、斉藤鉄夫衆議院議員の稲田隆則秘書と広島市議会の碓氷芳雄議員からご挨拶を頂き、松村康人顧問の乾杯の音頭で懇親会が開演した。来賓及び会員同士の名刺交換や活発な情報交換と親睦の輪が広がり、野口博文副支部長の一丁締めで散会となった。

第12回 非破壊評価総合展 開催

鎌田敏郎教授

奥野訓子氏

前川真一氏

小泉圭吾氏

三上浩一氏

広報部会展示会委員会（松嶋美乃委員長）は、日本能率協会と共同主催で7月23日～25日の3日間「第12回非破壊評価総合展」を開催した。今回の展示会では、以下の6講演と2件の特別展示の他に、大阪大学の鎌田敏郎教授をモデレーターに迎え「壊さずに語れ!!見えない未来の探し方」と題し、当工業会として初企画となるパネルディスカッションを開催した。参加したパネリストは、奥野訓子氏（IHI検査計測事業部技術部NDEグループ）、前川真一氏（NDT工業会シニアエキスパート）、小泉圭吾氏（地球環境取締役）、三上浩一氏（エム・キュービック代表取締役）の4名が登壇した。各登壇者は自己紹介をした後、非破壊検査業界に入るきっかけや、仕事の満足度及び魅力等について語った。また、今後当業界が直面する課題として、業務と教育訓練時間確保の両立、技術者育成制度と人材の確保、国の予防保全に関する意識の向上や予算化等を挙げた。また、解決策としてAIやロボットを活用した検査補助による検査員の負荷軽減、教育プログラムの充実等が挙げられた。

鎌田教授は、今回のパネルディスカッションを総括して「各パネリストからは非常に建設的な意見があった。非破壊検査が単なる検査ではなく、そこにある付加価値を社会にアピールすることが重要である。また、未来を支える大切な仕事であり、今回の議論をきっかけとし、次の一歩を踏み出していくことが重要ではないか」と締めくくった。会場は立ち見が出るほどの盛況ぶりであった。

非破壊評価技術セミナー（6講演）

7月23日㈬	危険物保安技術協会　伊藤真人氏	「屋外貯蔵タンクにおける非破壊検査のDXに向けた取り組み」
	非破壊検査　藤田涼平氏	「デジタル技術がもたらす非破壊検査サービス業界のパラダイムシフト」
7月24日㈭	シンワ検査　佐藤賢治氏	「走行型赤外線調査車両の開発」
	愛知大学大学院　中畑和之氏	「つながる検査, 活きるデータ ～ NDE 4.0による非破壊検査の革新」
7月25日㈮	橋梁調査会　木村嘉富氏	「SIPスマートインフラマネジメントシステムにおける非破壊検査技術の開発と社会実装」
	日本電磁測器　齊藤順次氏	「非破壊検査技術に関する当社の取り組み －AI適用事例－」

特別展示（2件）

シンワ検査：走行型赤外線調査車両　／　KS-NET：リモートコラボレーションによる超音波検査

鋼製支柱の埋設部腐食検査装置（COLOPATスキャン）の開発

1.はじめに

近年、照明灯、標識柱の倒壊による事故が全国各地で報告されている。これらの設備の多くが経年劣化を抱えており、安全性の確保が急務となっている。腐食部は地際部（地中埋設物の地上部との境目）から地中部4cmまでが最も腐食し易いが、地表面からは腐食の有無は確認できないため、鋼製支柱等の調査・点検ではコンクリート部分を路面掘削した後に、目視検査及び超音波で肉厚測定を行うことが一般的で、調査・点検費用が高額となり、限られた予算内でインフラを維持しなければならない自治体にとっては大きな負担となっている。また、塩害地域などでは耐用年数に満たない段階で急速に腐食が進むケースも見られ、事前の予測が難しいことも課題である。

図1

2.COLOPATスキャンの開発

東京ガスエンジニアリングソリューションズと共同開発した鋼製支柱の埋設部腐食検査装置（COLOPATスキャン）は、磁場を使った装置で全周の状態を把握することができる。図1のようにセンサを支柱根元に設置し、手動で一周回することで測定ができるため、コンクリートの掘削やグラインダーによる表面処理を必要とせず、塗装の復旧工事や接触媒質の除去といった後処理も不要である。塗装を落とことなく短時間で測定が可能であることから、鋼製支柱1本あたりの腐食検査時間は10分程度と非常に短く、多くの対象物を効率的に調査できる。また、装置の特徴としてバッテリー内臓で外部電源が不要であることや、手元のPCと無線通信（Bluetooth）を使用することでケーブルなしでスキャンができる。

図2

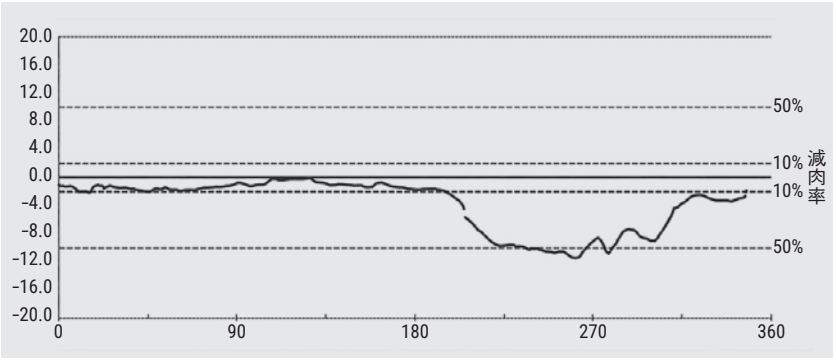

図3

この装置には永久磁石が内蔵されており、図2に示すような腐食・減肉部分に対して、支柱表面にセンサを設置し、磁場を印加することで、磁束密度を検知する。腐食部分があると、磁場に乱れが生じ、この乱れを数値化する。図3に示すように、この数値を健全な部分と腐食した部分とをリアルタイムで比較することで、腐食による減肉状態を把握できる。さらに、地域ごとの地磁気の影響については、柱の健全な部分と腐食した部分とを比較することで、地磁気の影響をキャンセルできる機能を備えており、定量的かつ信頼性の高い評価が可能となっている。

3.実用化と展望

2020年には特許を取得し、NETISにも登録された本技術は、これまでに、藤沢市・横須賀市・相模原市・千葉県・沖縄県の県道及び市道において実地調査を行っており、神奈川県内の国道でも複数の導入実績がある。当初は鋼管柱（円柱）を主な対象としていたが、角柱にも対応できるよう解析ソフトウェアを改良し、さらに多様なインフラ設備への対応が可能となった。現在は鉄道施設への導入に向け、鉄道事業者と共同研究を進めている。

問合せ先：東京理学検査株式会社　　技術開発部　新島祥顕
TEL：03-3766-4501　　E-mail：niijima@tokyorigaku.co.jp　　HP：https://tokyorigaku.co.jp

遠隔･非接触の打音検査装置「レーザー打音検査装置」の紹介

1.はじめに

日本の道路トンネルや橋梁では、5年ごとに国土交通省が定めた点検要領に基づき、主に「目視検査」と「打音検査」による健全性の診断が行われている。打音検査では検査員が構造物をハンマーで叩き、発生する音から欠陥を診断するが、負担が大きく、かつ熟練工が必要であるため、新技術による機械化・デジタル化が望まれている。国土交通省ではNETISや点検支援技術性能カタログなどを整備し、新技術の現場導入を積極的に推進している。本稿では、内閣府主導の国家プロジェクトSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）で開発され、同カタログに登録（TN020003）（BR020016）されている「レーザー打音検査装置（図1）」について紹介する。

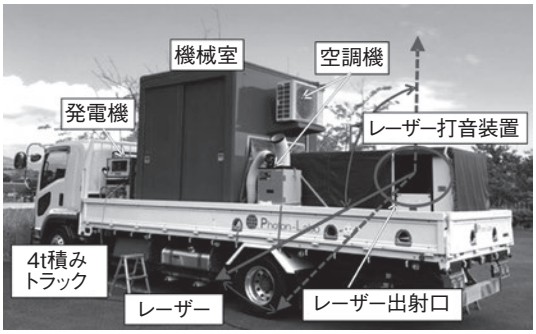

図1　レーザー打音検査車両

2.レーザー打音検査法の原理について

レーザー打音検査では、2つのレーザーで打音検査におけるハンマー（振動励起）と耳（振動計測）の役割を代替し、打音検査を遠隔・非接触で再現する（図2）。振動励起レーザーは高強度のパルスレーザーであり、照射により僅かに発生する高温の蒸気の吹き出しの反作用により検査表面に振動を励起する。内部にうきやはく離等の不連続面（欠陥）がある箇所では、表面から伝播した弾性波が反射・干渉し特定の周波数にピークを持つ共振が振動スペクトルに発生する（たわみ共振）（図3(a)）。逆に健全箇所では共振が発生しない（図3(b)）。

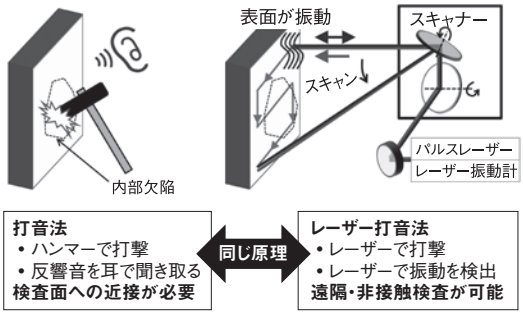

図2レーザー打音検査装置のしくみ

3.レーザー打音検査装置の使い方について

レーザー打音検査装置では、レーザーをスキャナーにより格子状に走査する事で、検査結果のマップを作成する。1回のスキャン範囲は、検査対象までの距離が5mの場合で最大70cm×70cmである。各点について3回の振動測定を行い、平均化した上で解析を実施し、減衰振動及び共振波形が観測された箇所を打音異常個所と判定し、カメラ画像と重ね合わせて自動で保存する（図4）。

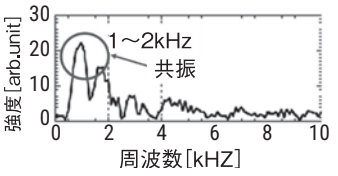

図3(a)　欠陥部のスペクトル

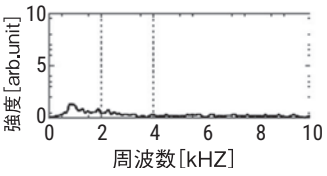

図3(b)健全部のスペクトル

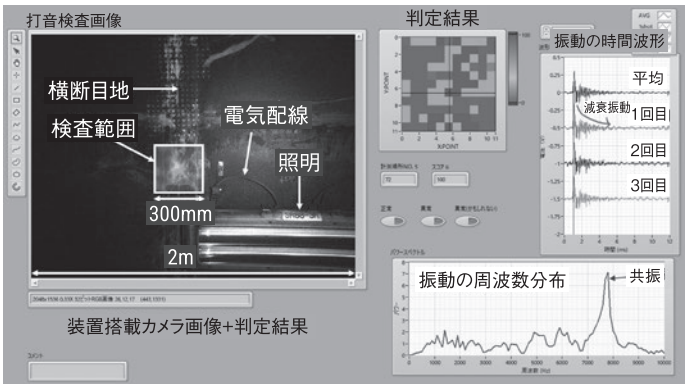

図4　レーザー打音検査結果の例

4.おわりに

レーザー打音検査装置は、従来の打音検査と同じ原理を用いて、打音検査を遠隔・非接触・デジタル化し、検査員の負担を軽減すると共に検査のエビデンスの保存や比較も可能な装置である。現在はトンネル・橋梁にとどまらず、打音検査が必要な様々な構造物への適応を目指し、更なる効率化・小型化を行っている。加えて、国土交通省のSBIR（Small Business Innovation Research）業務を受諾し、鉄道への適応も進めている。

図3引用：土木学会　構造工学論文集 vol.68A,No.3 pp.671-684（2022）
図4引用：光アライアンス　Vol.32. No.12,pp.38-43,2021

問合せ先：計測検査株式会社　総務部　坂本勝哉
TEL:093-642-8231　FAX:093-641-2010　E-mail:katsuya-sakamoto@keisokukensa.co.jp　HP:https://www.keisokukensa.co.jp

労働大学校「非破壊検査実習」への協力

研修項目	講師（敬称略）
講　義	前川 真一
超音波探傷試験	辻 哲平、前川 真一
放射線透過試験	芥川 秀樹
浸透探傷試験	馬上 宏之
磁気探傷試験	弓野 拓也

実習のもよう

技術部会（安田裕之部会長）は、独立行政法人労働政策研究・研修機構が設立・運営する労働大学校からの依頼に基づき、9月2～3日の両日、労働行政の中核を担う行政職員向けの「検査業務専門Ⅱ（非破壊検査講義及び実習）」を行った。全国の労働基準監督署等から労働大学校（埼玉県朝霞市）に32名の研修生が集まり、ベテラン講師陣から非破壊検査座学講習（2時間30分）及び検査種目毎の実技講習（5時間）を受講した。研修中は、熱心な聴講姿勢と質疑応答などがあり、有意義な研修となった。

放射性同位元素等安全管理委員会（放安委）令和7年度大会･見学会を実施

令和7年度大会のもよう

9月10日放安委は、アークホテル大阪心斎橋の会議室にて委員18名、オブザーバ6名、事務局1名、オンライン参加7名の合計32名出席のもと、令和7年度大会を開催した。会議では、定足数の確認に続き、令和6年度会計、令和7年度活動計画が報告され、全会一致で承認された。次に、理化学研究所安全管理部の杉山和幸氏（元文部科学省）による「RI規制法と非破壊検査について」の特別講演が行われた。引き続いての委員会では、特定放射性同位元素の防護措置について防護規定関連及びパブコメによる修正点、電離放射線障害防止規則の改正、セキュリティ対策等について情報交換を行った。

前日の9月9日には、2025年日本国際博覧会（大阪万博）の大阪ヘルスケアパビリオン内のポニー工業のブース等を見学した。月面を舞台にCTスキャンによる検査をバーチャルリアリティによるリアルな体験をする未来の非破壊検査を体験した。

本部

会員動向　令和7年9月30日 現在の正会員数193社（東日本支部77社、関西支部42社、西日本支部40社、機材支部34社）

退　会　■西日本支部　サンヨー検査工業株式会社　令和7年8月27日付

技術と信頼であらゆるニーズにお答えします
"High Quality Inspection Service"
株式会社 アイ・エム・シー
事業内容 ■ 非破壊検査全般 ■ ﾀﾝｸ・ﾌﾟﾗﾝﾄ保守検査 ■ ｲﾝﾌﾗ点検全般 ■ 品質管理業務
認 定 （一社）日本溶接協会（CIW）認定 A種
ISO9001 認証 JMAQA-1790
一般建設業許可 国土交通大臣許可（般-6）第 23267 号 他
本 社 〒652-0898 神戸市兵庫区駅前通 5 丁目 3 番 14 号
TEL 078(577)3691 FAX 078(576)2008
URL https:// imc-ndi.com
事業所 千葉事業所/中部事業所/関西事業所

CIW 認定 A種
労働者派遣事業許可
ISO9001 認証 JMAQA-1749
想像から創造へ 今感動の技術
株式会社ダンテック
■ 非破壊試験検査全般 ■ 建築・土木構造物調査診断
■ 各種プラント保守点検 ■ 各種設備・配管劣化調査
■ 品質管理 ■ 破壊試験・化学分析等材料試験
本 社 〒530-0043 大阪市北区天満4丁目14番13号
TEL.06(6354)3641 FAX.06(6354)2707

CIW検査事業者認定 C種
労働者派遣事業
安全を見つめています
アトミックス工業株式会社
営業種目：非破壊検査全般
ｲﾝｽﾍﾟｸﾀｰ・品質管理
各種監督業務・調査業務等
本社 〒731-0103 広島県広島市安佐南区緑井1-28-45
TEL 082-870-3131 FAX 082-870-3210
URL http://www.atm-kogyo.co.jp/
E-mail honsya@atm-kogyo.co.jp
福山営業所 〒721-0963 広島県福山市南手城町3-17-17
TEL 084-928-4533 FAX 084-944-5005
E-mail fukuyama@atm-kogyo.co.jp

SHK
"診る"を究めて
人と技術を「安全」という強固な絆で
結び、「安心」を提供します。
新日本非破壊検査株式会社
営業本部 〒803-8517 北九州市小倉北区井堀4丁目10番13号
TEL：093-581-1234 FAX：093-581-4567
東京営業部 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16－9
aLATO日本橋小伝馬町 3階
TEL：03-6661-1307 FAX：03-6661-1308
https：//www.shk-k.co.jp

2025年度前期 第22回 インフラ調査士 資格認証試験 受験者情報

【二次試験結果】

8月5日～6日

会場：川崎市産業振興会館

資格	橋梁（鋼橋）	橋梁（コンクリート）
受験者数	56名	57名
合格者数	54名	36名

資格	トンネル	付帯施設
受験者数	59名	43名
合格者数	35名	34名

2025年度前期 第34回配筋探査技術者資格認証試験 受験者情報

8月に実施した前期配筋探査実技（二次）試験結果、資格認証者・合格率及び後期資格認証試験日程は次のとおりです。

		関東	関西	受験者合計	合格者	合格率
配筋探査技術者（土木）実技試験結果	土木（電磁波レーダ法）	79名	86名	165名	139名	84%
	土木（電磁誘導法）	59名	64名	123名	110名	89%
配筋探査技術者（建築）試験結果	建築	34名	—	34名	34名	100%

2025年度後期 配筋探査技術者（土木）資格認証試験日程		
	関東（学科：東京、実技：川崎）	関西（大阪）
学科（一次）試験	2025年11月26日	2025年11月26日
実技（二次）試験	2026年2月25日～27日	2026年2月17日～19日

2025年度前期 配筋探査技術者（建築）資格認証試験日程　（試験会場：関東）	
建築学科講習・建築修了試験（eラーニング）	2025年10月3日～10月23日
建築実技講習・建築実技試験（同日開催）	2025年11月19日～11月20日

講習会開催情報

配筋探査実技講習会	［教育部会］	関東（7/15～17）、関西（7/29～31）	受講者　93名
NDI資格取得のための受験対策セミナー	［東日本支部］	8月30日～9月7日	受講者　22名
NDIレベル2秋期一次試験対策セミナー	［関西支部］	9月6日	受講者　34名

第4回 エックス線安全取扱教育講習のご案内

非破壊検査を目的として携帯式エックス線装置を使用される方を対象に、「透過写真撮影業務特別教育規定」（労告50号）に準拠した講習を開催します。当講習は、専門分野の講師による**eラーニング形式**で実施し、作業現場ですぐに使える具体的な知識を中心に講義を進めており、使用時の記録方法や必要な標識等も判り易く説明します。

詳細は当工業会Webサイト（https://www.jandt.or.jp/）よりご確認ください。

【講習期間】2025年11月4日（火）～12月31日（水）　【申込期日】2025年9月12日（金）～10月17日（金）

【受講料】一般（非会員）価格:8,800円（税込）、当工業会会員および協賛団体会員の価格:4,400円（税込）

申込みQRコード

EVIDENT

使いやすさと性能がさらに進化した第4世代 OmniScan

OMNISCAN X4

64素子同時励振（TFMは128）

小型（約6kg）・タフ設計

リアルタイムPCI※対応

※PCI：位相コヒーレンスイメージング

エビデント・インスペクション・テクノロジーズ・ジャパン株式会社

0120-255-072　ims.EvidentScientific.com

サンコウの測定器・検査機器

非接触膜厚計コートマスター FLEX

◆ウェット／乾燥状態のコーティング層を非接触で測定可能！

SANKO 株式会社サンコウ電子研究所

東　京：03-3254-5031　大 阪：06-6881-1230　仙台：022-292-7030

名古屋：052-915-2650　福 岡：092-282-6801

URL　https://www.sanko-denshi.co.jp

Pony

工業用LED高輝度シャウカステン PHC-V

・JIS Z 4561(1992)に対応しD35形を満足する観察器
・安心の国産LEDチップを採用
・コンパクト化を実現（当社比）
・耐擦傷性高透明アクリルを使用し、耐久性向上（当社比）

LED対応透過濃度計 DMP-V

・小型・軽量
・従来の蛍光灯・LED光源にも対応※（輝度約50,000cd/m²まで）
・1つのボタンでONとキャリブレーションが可能（オートOFF機能搭載）

※当社製シャウカステンに対応しています。

ポニー工業株式会社　www.ponyindustry.co.jp

お問合せ先　（大阪）06-6262-6510　（東京）03-5472-1091

非破壊検査機器の販売・修理・校正・レンタル

工業X線発生装置

超音波探傷器　USM100

超音波厚さ計　DM5E

支える、の一番近くに。

RIKOH-S 理工サービス株式会社

〒733-0035 広島市西区南観音6丁目3番10号

TEL：(082)292-2552（代）　FAX：(082)295-0566

E-mail:rikoh@rikoh-s.com　URL：https://www.rikoh-s.com/